

ひまわり メッセージ

85号

2018.6.11
NPOひまわりの花内
西濃地域
発達障がい支援センター
発行人：中野たみ子



悲痛な叫び

毎日様々なニュースが飛び交う中、数日前からマスコミは五歳の結愛ちゃんの死を報じています。虐待によって命を絶たれた結愛ちゃんは、

毎朝四時に起きて、平仮名の練習をしていました。

「ハハママ やるして」と懸命に書いた結愛ちゃんのことは、結局両親には届きませんでした。結愛ちゃんが残したメモの内容は余りにも悲痛で胸をかきむしられる思いがします。彼女は何のためにこの世に生を受けたのでしょうか。お母さんは一度も彼女をかわいにと思ったことがなかったのでしょうか。いいえ、前夫との間に生まれた彼女を、きっとかわいいと思って抱きしめてくれた日々があつたに違いない……と信じたいと思います。

それでも嫌なニュースが何と多いことでしょう。「自分さえよければ……」という利己主義や自己防衛の人たちが政治にもスポーツの世界にも巷にも満ちあふれているのでしょうか。かく言う私自身

にしたって大した人間ではありませんが、悲しいニュースや腹立たしい出来事にさらされないと、自分の心まで枯渇してしまいますよ、な気がします。

ところで昨日、庭の隅に咲く萩を見つけました。萩は秋に咲くものなのに……と思い、病床の友人に便りをしようと立

ちました。確か文箱に萩の花の絵葉書きがあったはずだと探し出しました。友には、ここ数ヶ月、折にふれて絵葉書きを送っているのです。いや書こうと思つて、ふと見ると、花の下に「こまつなぎ」と書かれているではありませんか。そして、「萩に似た花で初夏に咲く」とありました。私が萩だと思っていたのは、実は「こまつなぎ」だったのです。

この花は、十年以上前、乳幼児家庭教育学級の講座で話をした折に、鉢植えをいたいたものでしたが、おそらく贈って下さった方も萩だと思って私に下さったのではなかつたでしょうか。庭の木々は、早々と剪定されて花を見ないで過ぎてしまうこともあります。今年は濃いピンクの可憐な花を見ることができ、花の名も知ることができ、友にも、そのいきさつを書き、送つたことでした。雨の合間の庭先に佇みながら、こまつなぎや十葉やつゆくすなど小さなやさしい花々に少し心をなぐさめられた気がしています。結愛ちゃんのご冥福を祈りながら、何度もくり返される悲しい事件を何とか防ぎたりと思ひます。子どもたちは、どの子も幸せであるべきなのですから……。

発達障がい支援

シンポジウムに参加して



先日、高山市で行われた発達障がい支援シンポジウムに出かけ文部科学省の田中裕一氏の基調講演を聴いてきました。

特別支援教育が始まって十年、合理的配慮、インクルーシブ教育、保護者との合意形成などということが、当然のように広がっていますが、実態はどうなのでしょう。校内におけるコ

ーディネーターの役割も明確になり、きちんと位置づけられる

ようになりましたし、困っている子どもたちへの対応は進んでいます。と思われるのですが、学習指導要領改訂に伴う解説を読むと、こんな解説がまだ必要な状況なのだと、逆に心配にならなくてきます。

小学校の国語科の抜粋です。（新学習指導要領より）

・文章を目で追ひながら音読することが困難な場合（困難さ）に

は、自分がどこを読むのが分かるように（指導上の工夫の意図）教科書の文を指等で押さえながら読むように促すこと、行間を空けるために拡大コピーしたもの用意すること、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意す

- ること、読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用することなどの配慮をする。（個に応じた様々な手立て）
- 3.
- ・声を出して発表することに困難がある場合（困難さ）や、人前で話すことへの不安を感じている場合（困難さ）には、紙やホワイトボードに書いたものを呈示したり、ICT機器を活用して発表したりするなど（個に応じた様々な手立て）、多様な表現方法が選択できるように工夫し、自分の考えを表すことに対する自信がもてるよう（指導上の工夫の意図）配慮をする。
 - これを読んで、私の脳裏に浮かんでくる光景があります。「ハイ、読書の用意」と言う先生の声だけで、皆立ち上がりそ本を持ち、読みはじめます。クラスの子の中には、本を机の上に置こうとする子もありますが、先生は机間を回りながら、ピッと本を立て直して行かれます。でも「あの子は読めでない」二の子も暗記してゐるだけ……ですが……？
 - この担任の先生は、個々の実態を把握して合理的配慮をされてしまうかというと、そうではないですね。板書に分かち書きをして下さる先生に出会うとホッとするのですが、文部科学省がこの様に細かな具体的配慮を記されることで、助か

る子どもたちも多いでしょう。

個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成対象者に
関しては、

「医師の診断がある児童等のみを対象としたり、通常の学級
の児童等については対象としない等、画一的な基準によって作
成対象を限定するのをなく個々の児童の障害の特性や状態等
をふまえ、教育上の支援が必要な児童等に対して作成するよ
う努める二事」としています。

が必要なのだろうか……と考えました。おそらく学校だけで
完結するのではなく、他機関との連携の必要性がますます増
えていくのではないか。

自立活動について



井川先生も「個別的アセスメントがやれないと、個別的支援は
できない。疾患名・障害名で計画できない」と、「はじめに診
断ありき」という風潮に疑問を投げかけておられます。園や
学校における本人・家族のニーズ把握がます大切ということに
なるでしょう。

田中裕一氏 講演の中で、「次期学習指導要領改訂の方向性」
にふれて、知識の量は削減せずに「生きていく力・生きて働く知識
技能の習得」や「未知の状況に対応できる思考力・判断力・表
現力などの育成」を目指して、何を、どの様に学んでいくのか、学び
方を考えて授業改善をしてほしいと言つておられました。

改訂の全文を私はまだ読んでいませんが、社会との連携や協働
をどうしていくのか、現場の先生方の中に根づくのにどの位の時間

が必要なのだろうか……と考えました。おそらく学校だけで
完結するのではなく、他機関との連携の必要性がますます増
えていくのではないか。

特別支援学校の小・中学部の学習指導要領に「自立活
動」があります。自立活動の目標は「個々の児童又は生徒が
自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的
に改善・克服するために必要な知識・技能・態度及び習慣
を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」として、六
区分二十七項目が決められています。(今まで三十六項目)
内容は、(1)健康の保持、(2)心理的な安定、(3)人間関係の
形成、(4)環境の把握、(5)身体の動き、(6)コミュニケーション
となっています。この六区分に二十七の項目があつて、それらの
情報を収集し、一人ひとりの子どもたちの数年後の姿を
見極めながら今指導すべき目標を定めて、実践し、点検
評価し、改善し、計画を練り直しきり返しながら、より良い
教育を提供していくことになります。

自立活動は、特別支援学校の指導要領ですが、自立
に向けた指導として、小・中学校の支援学級の指導にも
参考になるところが多いのではないかと私は考えています。

就労に向けたスキルについて

過日、S.E.N.S（特別支援教育）の総会で、就労支援の方にお会いしたので、就労に向けた必要なスキルについてたずねてみました。すると、後日、その方がEメールを使って「数十の企業にヒアリングをしたところ、次のような回答があつたと知らせてくれたのでご紹介します。

実は、一番多かったのは、「挨拶ができる」としました。あたりまえのことだけれど、企業の方がそう思われるということは挨拶ができる人が多いということでしょうか。

まず、家庭でおはよう」、「おはようございます」、「いらっしゃま」「お休みなさい」等々言っているでしょうか。家族間では大丈夫でしょうか。家庭の中でも、自然にありますでいいところといいですね。

それから、何のために働くかなければならないのかが分かっていないと困る、というのもありました。毎日、元気で出勤ができる体力がある、働く意欲があることは、もちろん必要です。

・時間や約束が守れる。

・衛生知識があるといい。

・身だしなみを整えることができる。

- ・受け答えができる、指示の理解ができる。
- ・根気よく仕事ができる。
- ・困った時の意思表示ができる。
- ・安全に仕事を遂行するためマニュアルが守れる。
- ・仕事の内容をおぼえることよりも、これらのことが優先されると企業側は考えていることです。もしかしたら保護者の方や学校教育の場で考えておられるごとに差があるのではないか……と、メールを読みながら心配になってしまった。

世の中は便利になりました。自分の体や手足を使わなくとも良いことも増えました。でも、将来生きづらさを抱えていくであろう子どもたちを目の前にした時、私は達は、子どもたちの五年後、十年後を見据えて、「今」を考えていかねばいけないのではないか。

家庭のルールはありますか？ 子どもが本来やるべきことを取り上げて周りの大人がやっていませんか？ 子どもの気づきを促してしましますか？ もう一度身の回りを見直してみませんか？ 大人が本当に子どもたちの手本になつているのかどうか……私も……大丈夫でしょうか……？



・センター親の会 七月例会 九日(月)九時半～
悩んでお母さんたち、ぜひおいで下さい。